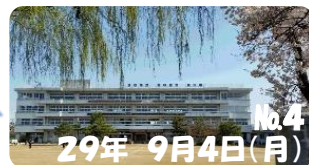




さわやか

No.4
29年 9月4日(月)

対話的な学びが促進する授業を創る

「対話的な学び」の充実は、ペアで話し合わせたりすることではありません。「対話」＝「話し合い」ではないのです。

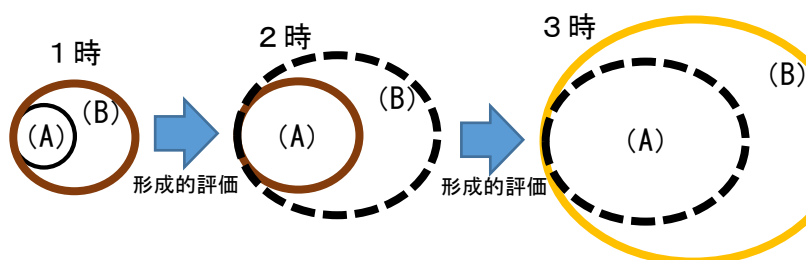
ある事象との対話を通して、子どもの学びが深まったり広まったりして、子どもの考え方が変わったり、新たな知識を身に付けたりすることが、対話の目的です。また、学びの充実にもつながるものでなくてはなりません。

2年1組の研究授業には、「対話的な学び」とは何か？「対話的な学びを充実させる授業づくり」とはどうしたらよいのか？そのヒントが満載でした。



子ども同士の「対話」を通して、数の概念を広める子ども達

既習事項と、学習経験と、教材との対話。先生と、友達と、自分との対話



左の図は、1単位時間での授業の流れと、学びの概念を表した図です。

内側の円が授業前の実態であり、それは既習事項や経験（A）です。

外側の円は、授業後の姿であり、ねらいを達成した姿（B）です。

この図から言えることは、内側の円、つまり既習事項や経験（A）が、疑問や考えの前提となっていて、この（A）がなければ、解決意欲をたかめたり授業のねらいを達成したりすることは難しいということになります。また、外側の円（ねらいを達成した姿）は、次時の既習事項や経験となってくるため、形成的評価で、ねらいの達成を確認したり、未定着の部分を補充したりしなければなりません。

「対話」の対象や内容、ツールを明確にして、授業を創る

2年1組の授業では、誰との対話か、どんな内容を話し合うのか、何をツールにしてわかりやすく伝えるのか等が、明確になっていました。それを、下記に表します。

	対話の対象	対話の内容・目的	対話のツール
導入 (自己内対話)	・自分（既習事項や経験） ・先生、教材	・既習事項 ・はてな？や解決のイメージ	・学習コーナー
展開 (自己外対話)	・友達（考え方や知識） ・教材	・自分の考え、友達の考え ・数の概念の深化・拡大	・数直線プリント
まとめ (自己内対話)	・自分 ・教材	・板書（本時の学び） ・学びの実感、明確化	・学習感想



あっ、解けそうだな。早く解きたい。

学習コーナーを使って、解決イメージを膨らませる。



へえ、そんな考え方もあるんだ。〇〇さんは、いい考え方をするなあ

友達との対話で、数の概念を広げる。



7班の、990-210の考えがよかった。いろんな表し方ができるんだと思った。

学んだこととの対話で、知識を定着させ、学びを実感させる。